(1) 下田中学校

学　　校　　長　山﨑　利彦
校内研究代表者　石﨑　千波

１．研究主題

『主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり』
～表現力の育成を中心として～

２．主題設定の理由

本校の生徒は、他の中学校に進学する生徒も多いため限られた小集団の中で学校生活を送っている。そのため、小集団ゆえに固定化された人間関係で「周りから受ける学習への刺激が少ないこと」が学習環境上の課題となっている。また学習に対する主体性や対話的な学習活動への積極性が乏しいことも多くの生徒に共通する課題としてとらえている。

各種の学力調査の結果からは思考力・判断力・表現力の弱さが見られ、特に表現力の弱さに関する具体的な課題として、発言や発表、根拠を示した説明等が弱いことを授業実践の中で各教員がとらえている。加えて、学習の基礎・基本の定着に課題が見られ、個別の学習支援が必要とされる生徒も各学年に在籍している。

このような課題や実態から、本年度は基礎・基本の定着を図る取組を継続して行いながら、特に表現力の育成を重点的に取組むこととした。理由としては、学習指導要領の改訂の中で求められる主体的・対話的で深い学びの実現は、上記の本校の生徒の課題を克服しない限り実現できないと考えたからである。また、自分の考えや意見等をきちんと表現できる力を持った生徒を育成したいという、教職員の願いも込められている。

研究主題に迫るための具体的な取組としては、意図的・意識的に対話的な学習形態を仕組み、自分の考えを伝える場面をできるだけ数多く設け、主体的な学びにつながる授業の研究を進めたいと考えた。

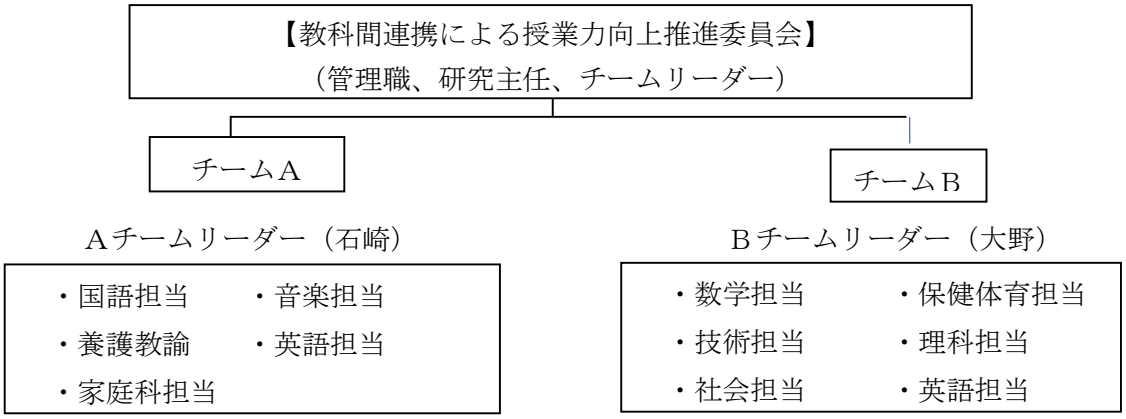
また、単元目標の達成に向けて単元や内容のまとまりごとに学びを振り返る場面を、効果的かつ適切に設けることで、学習内容の定着を図るだけでなく、生徒一人ひとりの深い学びにつなげ、新学習指導要領で求められる授業づくりの研究を確立していきたい。

３．研究の進め方と方法

チーム会を軸にした以下の４つの取り組みにより研究を進めている。

（１）チーム参観　　（２）チーム協議　　（３）校内研修　　（４）実践ミニレポート

研究チームを２チーム編成し、毎週木曜日にチーム会を実施する。チーム会では、研究テーマに迫るための授業づくりについて公開授業の指導案検討や授業後の協議等を行っている。また、校内研修において、２チームの研究の進捗状況を報告し、全員で学びを共有する。



４．研究内容　～教科間連携による授業力向上の取り組みについて～

一昨年まで指定事業であった「中学校教科間連携による授業力向上実践研究」を継承し、授業改善の取り組みを勧めている。昨年度の課題や生徒の実態を踏まえて、研究主題に迫るために思考力・判断力・表現力のさらなる育成をめざし、学校の組織的な授業改善や授業力向上のための体制づくりが構築できるよう研究している。今年度は、昨年度の実践から取組内容を見直しつつ、次のような研究仮設のもと、主体的で対話的な深い学びを目指した授業づくりの実践を行ってきた。

①めあての達成に向けた学習形態（ペア学習やグループ学習等）を工夫すれば、表現力が高まるであろう。
②効果的・定期的な学びの振り返りを充実させることができれば、表現力が高まるであろう。

これらの仮説から、今年度は、①下田の学びのスタイルの充実　②効果的な単元目標の工夫　③（単元）目標に応じた振り返り方法の工夫　の３つを具体的な研究内容とし、取組を継続してきた。

【教科間連携を中心とした研究サイクル】

（１）チーム参観(授業研)

参観者と授業者が協議等によって学びを深めるためのチーム総見授業を行っている。授業を参観する時には、参観シートを活用して授業を見取っている。また、参観シートには生徒のつぶやきや活動の様子を記入しチーム協議時に活用している。チーム総見授業は各学期に各自が１回ずつ行うこととし、全校研は、各学期各チーム一回ずつ授業を行った。

（２）チーム協議

毎週木曜日の時間割に組み込んでおり、(1) のチーム参観を受けて参観した授業の事後協議を行ったり、学習指導案の検討や模擬授業を行ったりする。また、定期テスト・各種学調査の振り返り等を行うこともある。主に、研究主題に迫るための具体的研究内容について協議を深めてきた。

（３）校内研修

（２）を受けて、企画委員会・研究推進委員会・全校研にて各チームの情報共有を行う。各チームから出せれた意見については、内容に応じて指導主事等を招いた研修を校内研修に取入れたり、新たな取り組みを決定したりする等、学校全体の取組の参考にする場合もある。

講師を招聘した全校研としては、1 学期は「新学習指導要領の改訂実施に伴う指導と評価の一体化」について西部教育事務所の指導主事を招聘し研修を行った。2・3 学期には、全体の授業研の講師として来ていただき新学習指導要領に沿った授業づくりについて研修を深めた。1 学期に行った総括では各教科担当が作成したレポートをもとに協議を行い 2 学期以降重点的に取り組む内容を以下の 3 点とし取組を進めてきた。

①（深い学びの実現）知識・技能が身についていないと深い学びにつながらないため、**知識・技能の習得は**重要なこと。
②（対話的な学びの実現）自己の考えを広げ深めるために、**「なぜ、そう思ったか」根拠をもって言わせる。**その場合、教師の仲介と学級づくりが重要になってくる。
③（主体的な学びの実現）考えたくなる**単元目標の工夫（得た知識の実践）・振り返りの充実（ノートの工夫）**

主に②の課題については、根拠をもとに自分の考えを言えたり書けたりできるよう、発表や説明の仕方を身に付けるために、ある程度、様式を作成し、共通の取組を行うことを決定した。作成した「発表マニュアル」は教師も生徒も意識できるよう各教室に掲示し活用している。

下田中学校 「発表・聞き方の」ポイント5か条」

＜発表者＞　～相手に伝わるように～

1 聞き手を見て話そう

2 声の大きさと速さに気を付けて話そう

3 ていねいな言葉づかいで話そう

「～です。　～ます。　～だと思います。」　など

4 筋道を立てて話そう

「まず、それから、だから、そのわけは、」など

5 自分の考えや答えの根拠を伝えよう

例）「私は、～だから～と考えました。」

「私は〇〇さん意見に賛成（同じ）です。理由は、～と思ったからです。」

＜聞き手＞　～相手が気持よく話せるように～

1　発表者や話している人を見よう

2　姿勢を正そう

3　発表者に反応しよう

「わかりました。」「同じです。」など、

時には相づちをうつことも大切

4　考え、時にはメモを取りながら聞こう

5　『聞く』から『聴く』に挑戦しよう

（4）実践ミニレポート

各学期に1回ずつ、主に授業者の学びを深めるために自身の実践をまとめたレポートを作成し、各チームで発表後、学期末の総括校内研で全教員が発表し成果のあった取組や課題の共有をする。レポートは「校内研の取組が授業改善・学力向上に効果があったのかどうか」を大きな視点としており、研究主題達成のための具体的な取組（以下①②）について作成している。生徒の変容や成果物を添付するなど、この取組は教師自身が、自分の授業の振り返りを促すとともに、教員相互で学び合い、授業実践し、さらに授業改善を図るといったものである。レポート発表を聞き、自身の授業に取り入れたりその後の実践に活かしたりする等、より深い実践となっている。

具体的な取組

①場面・内容に応じた学習形態の工夫（個・ペア・グループ・全体(学級・全校)）

②（単元や内容のまとまりごとの振り返りも含む）ノート指導の工夫

5．今年度の成果と課題

授業力向上の取組を中心に、計画的にチーム会（教科間連携）を実施することができている。4つの取組では具体的研究内容を意識し、各チーム・各教科で取り組むことができた。特に表現力を高めるための取組では、学校評価アンケートでも次の項目で「授業改善を通して生徒の表現力を育成する取組を継続している」（思う―64%、まあ思う―27%）という結果から、授業の中で個人思考から発表する場面を設定することで、自分の考えを相手に伝えようとする態度が見えてきている。

また、校内研究主題でもある「主体的・対話的で深い学びの授業」に関するオンデマンド研修を通して、授業づくりに共通する視点を全員で学ぶことができた。本校の研究体制の軸となっている教科間連携による授業改善に向けての取り組みでは、教科の特性があるため、指導案や授業内容について深く協議したり、アドバイスしたりすることが難しいという声があったが、本研修を通して「教員全員が共通の目標に向かって進むためには、どんな課題に取り組めばいいか」を考える機会を得ることができた。また、企画委員会で研修内容の方向性を明確にしていたことが効果的であったが、共通の目標を持つことはできたものの、各教科でどのように実践していくか組織的な検証がまだ十分でないことが課題である。

最後に、各種学力テスト等の結果分析を行う中で、記述式の問題に課題がある生徒、これまでの学習の基礎・基本が十分に身についておらず、個別支援が必要な生徒等、個々の生徒の学習課題が見えてきた。生徒一人ひとりの課題を克服するための具体的な手立てを共有し、個別支援の支援体制を整えていきたい。これらのことを踏まえて、本校の課題を克服するために「どんなことができるか」「どんな成果があったか」を検証しながら、今後も研究・実践し、生徒の資質・能力を高めていきたい。